

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25860442

研究課題名(和文) 地域高齢者の悉皆調査による認知症とリスク要因としての抑うつとの関連の実態調査

研究課題名(英文) Investigation for a relation between past depressive state and dementia in community dwelling elderly

研究代表者

松本 光央 (Matsumoto, teruhisa)

愛媛大学・医学部附属病院・助教

研究者番号：20581094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)： 認知症の有病率について：伊予市中山地区在住の65歳以上の高齢者1386名のうち、なんらかの認知症と診断される者は106名であった。各認知症の割合は、アルツハイマー病が39%、血管性認知症が38%、アルツハイマー病+脳血管障害が14%、その他が10%であった。過去の抑うつと認知症発生の関連について：GDSで評価される高齢者の抑うつは認知症の発生リスクとされない可能性が示唆された。抑うつ、認知症と自殺の関連について：調査期間中自殺者は発生しなかった。

研究成果の概要(英文)： Prevalence rate of dementia: At Nakayama area in Iyo city, there are 106 elderly people(65) with dementia among 1386 peoples. The ratio of Alzheimer disease is 39%, vascular dementia is 38%, AD+cerebral vascular disease is 14%, others is 10%. The relation between past depressive state and dementia: It was suggested that depressive state indicated by GDS is not necessarily the risk of dementia. The relation between depressive state or dementia and suicide.: During the investigation period, no suicide has happened.

研究分野：老年精神医学

キーワード：認知症 疫学 抑うつ 自殺

1. 研究開始当初の背景

昨今、自殺者の増加が問題となっているが、わが国では以前より高齢者の自殺が多いのが特徴である。高齢者の自殺の背景にはうつ病が指摘されており、更に、うつ病はアルツハイマー病(AD)の原因となりうることも指摘されている。しかし、その移行率や移行する機序については、不明な点も多く、高齢者の自殺に関わる多様な因子について明らかにし、自殺のリスクの高い高齢者を抽出できるスクリーニング方法を開発するとともに、脳画像解析、遺伝子解析によって高齢者のうつ病発症の生物学的基盤を明らかにとする必要があった。

2. 研究の目的

わが国では、急速な高齢化に伴い、高齢者のうつ病、自殺が急増していることが問題となる一方で、高齢者のうつ病の病態の詳細な報告は少ない。また、高齢者のうつ病では、一般に知られている定型的なうつ病とは異なる症状や経過をたどることが指摘されており、周囲に気づかれにくく受診に至っていない可能性があると考えた。

我々は平成9年より平成11年、平成16年と県内の自治体の協力を得て、愛媛県中山町で高齢者を対象とした悉皆調査を行っており(**Neurology 2001, J Neurol Neurosurg Psychiatry 2004, Int J Geriatr Psychiatry 2006, Dement Geriatr Cogn Disord 2007**)、この調査では、60歳以上の本人と介護者すべてに老年精神医学専門の医師が面接し、MMSE(Mini-Mental State Examination)とGDS(Geriatric Depression Scale)をはじめとする神経心理学的検査や、問診を行っている。これらの活動によって、ほぼ全ての地域の高齢者の生活環境、健康状態、家庭環境、社会福祉サービスの利用状況などが把握されている。既にコミュニティベースでの抑うつの有無、認知症の有病率、認知症の前駆段階からの移行率は明らかとなっている。

今回はコミュニティベースでの調査におけるGDSの結果から老年期のうつ病を抽出し追跡調査することで、受診の有無というバイアスを除いて高齢者のうつ病の実態とうつ病と認知症の因果関係を明らかにできると考えた。

3. 研究の方法

①過去の蓄積された中山町調査のデータを用いて、うつ病の有無による認知症発病率の違いを検討する。また、新たに大規模高齢者調査を行い、第3回調査時のGDSで抑うつありと判断された群を追跡し、認知症への移行率が抑うつなし群とどう異なるのか検討する。

②希死年慮、自殺企図については介護家族や在宅介護職員から寄せられた情報をもとに訪問し、面接を行い診察する。また、過去の調査の結果を検討し、自殺に至る要因を比較し、希死年慮、自殺企図に関連の強い要素について検討する。

4. 研究成果

(1)第4回中山町高齢者大規模調査

①まず、現在の高齢者の現状把握のために過去3回行ったのと同様の方法で調査を行った。

②国勢調査によれば、対象地域の伊予市中山地区の平成22年時点で総人口3534人、65歳以上人口1463人で、高齢化率41.4%であった。

③一次調査：65歳以上の高齢者、介護者を対象に生活環境、既往歴、内服中の薬物確認を行い、GDS、MMSE、SMQ、柄澤式を用いて認知機能低下の有無を確認するためのスクリーニングを行った。

調査期間：平成24年11月6日～平成25年3月28日

調査対象者：1494名

調査期間中の死亡者：25名

町外移住者(入院、施設入所含む)：83名

→実施対象人数1386名

調査方法：地区別に集会所での悉皆調査。
集会所に来られない者は訪問にて実施。

調査回数：64回

調査結果：参加者 1216名
未実施者 278名(拒否、施行不能含む)

二次対象者 462名

実施率：87.7%

④二次調査

一次調査で MMSE23 点以下もしくは想起 0 点もしくは SMQ40 点未満もしくは柄澤式+1 以上」だった者に対し神経診察、NPI, ZBI, CDR を行い、認知症が疑われる者を抽出した。

調査期間：平成 25 年 7 月 16 日～平成 25 年 12 月 5 日

調査対象者：462名

調査期間中の死亡者：11名

町外移住者(入院、施設入所含む)：12名

→実施対象人数：439名

調査方法：地区別に集会所での悉皆調査。
集会所に来られない者は訪問にて実施。

調査回数：35回

調査結果：参加者 340名
未実施者 122名(拒否、施行不能含む)

三次対象者 246名

実施率：77.4%

⑤三次調査

二次調査で抽出した者のうち、画像検査を必要と判断した者に画像検査を受けていただき、診断した。

調査期間：平成 25 年 7 月 16 日～平成 26 年 3 月 31 日

調査対象者：246名

調査方法：近医にて頭部形態画像を撮像。
画像を郵送にて回収。

調査結果：参加者 246名
未実施者 88名(拒否、施行不能含む)

調査完了 158名

実施率：64.2%

⑥認知症と診断される者は106名で各認知症の割合は、アルツハイマー病が39%、血管性認知症が38%、アルツハイマー病+脳血管障害が14%、その他が10%であった。

⑦65歳以上の人口は第3回時とほぼ同数ながら、平均年齢は過去より大幅に高く、認知症の有病率は第3回時に比べ増加していた。

これらからは、慢性的な若年層の減少や、団塊の世代の高年齢化、認知症になってからの寿命の延長などが示唆される。

一方で高齢化率は全国平均を大幅に上回っているが、認知症有病率は平成22年の本邦の推計値である15%を下回っていた。このことと、正常圧水頭症などのいわゆる treatable dementia の割合が低いことは第1回調査から通じて取り組んできた認知症予防事業に拠るところが大きいと考えられた。

(2)抑うつと認知症の関連について

第3回調査時にGDSが施行でき、認知症と診断されていない1160名のうち何名が第4回調査時に認知症に移行しているか調べた。

その結果、認知症に移行していた者は71名いた。それらと死亡者を除外した認知症に移行していない者でGDSの特典傾向に差異があるか検定したが、優位な差異は認められず、GDSで評価される抑うつの有無は認知症の発生を予測する指標とはならないことが示唆された。

(3)抑うつ、認知症と自殺者の関連について調査期間中高齢者の自殺者は発生しなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計2件)

- ① 松本光央「地域高齢者の生活実態と認知症について～第4回中山町高齢者大規模調査より～」愛媛県認知症研究会、2014年12月5日、エスポワール愛媛文教会館（愛媛県松山市）
- ② 松本光央「地域高齢者の生活実態と認知症について～第4回中山町高齢者大規模調査より～」第55回中国・四国精神神経学会
平成26年10月25日（土）、海峡メッセ下関（山口県下関市）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 光央 (Matsumoto, Teruhisa)

愛媛大学・医学部附属病院・助教

研究者番号：20581094

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし